

1. 兄弟たち。私は今、あなたがたに福音を知らせましょう。これは、私があなたがたに宣べ伝えたもので、あなたがたが受け入れ、また、それによって立っている福音です。また、もしあなたがたがよく考えもしないで信じたのでないなら、私の宣べ伝えたこの福音の**ことば**をしっかりと保っていれば、この福音によって救われるのです。(15:1-2)
 - a. あなたは「福音」と聞くとどんなイメージを浮かべるだろう？クリスチャンの間でも、福音とは何か、また私たちにとってどのような意味があるものなのか、ということについては様々な意見があると思う。もっとも4つの福音書があることからわかるように、福音とは一行二行で語れるものではない。
 - b. パウロは次の何節かを使い福音の要素を説明するが、まず「福音によって救われる」という意味について考えてみよう。
 - c. 現代のクリスチャンにありがちなのが、「一旦救われたなら天国に行くまで何もせずただ待っていればよい」、あるいは「クリスチャンになったら健康、富、知識を追求し良い生活を送り天国に入ればよい」というような誤解である。しかしパウロも他の使徒たちも、福音がそのようなものだと述べていない。
 - d. 「救われる」とはどのような意味なのだろうか。その過程はいまだ現在進行中である。信仰によって成長、成熟していき、最終的に完全になる時には神がもともと人類を創られた時のイメージ、すなわち神の御姿に似た者となる。イエスが完全に神の御姿を映したお方であったように、私たちもそうなるべくコールを受けている。
2. 私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書に従って三日目によみがえられたこと、(15:3-4)
 - a. ここでパウロは福音の総まとめをしている。キリストは聖書の示すとおりに私たちの罪のために死なれ、葬られ、また聖書に従って三日目によみがえられた。
 - b. 「聖書の示すとおりに」という表現にはいくつかの意味が考えられる。一つには神は福音が明らかにされる数千年も前から準備をしておられたということ。また福音は正しい文脈に当てはめる必要があり、文脈を間違うと、福音も神のことも自分のことも正しく理解できなくなる恐れがあるということ。文脈は聖書の中に見ることができ
 - c. 「聖なる神は罪深い人類に我慢ができなくなりその罪のためひとり子を送り死なせた」というのもまた一つの誤解である。皆さんもそのような解釈を聞いたことがあるかもしれないが、それは聖書の中で最も有名な聖句「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された」に相反する。
3. また、ケパに現われ、それから十二弟子に現われたことです。その後、キリストは五百人以上の兄弟たちに同時に現われました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。(15:5-6)
 - a. これは作り話ではない。実際500人以上によって目撃された史実である。時代を超えて何万、何億という人がこの福音に信仰をおいている。
 - b. 神の子どもたちの現われは日に日に近づいている(ローマ8:19)。私はいつの日かこの地上でも神の姿をそのまま映す教会が現われると信じている。